

長岡市立図書館の農業支援

井口麻子
長岡市立中央図書館

1. はじめに

ビジネスライブラリアン研修を受けようと思ったのは令和5年度にまちなか図書館の開館を控えているからである。「人づくりと産業振興」を掲げた図書館でビジネス支援をひとつの軸としている。大正7年(1918)に実業家の野本恭八郎(互尊翁)が自らの思想から名付けて長岡市に寄付したのが最初の図書館「互尊文庫」であった。互尊翁は図書館を修養の場とらえ、自己研鑽と社会奉仕ができる人物を作りたいと考えていた。講習を受けて、互尊翁の思想はビジネス支援の基礎と近いと感じた。商業のまちであった長岡に人づくりのため図書館であれば知的に人を支えられると考え、文学だけでなく、経済・商業の資料も揃えた。地域を活性化させる人づくりを、図書館から発信したいという思想は現代に通じる考えであった。

今回のワークショップの課題では鳥獣被害対策を図書館が支援する企画を提案した。発表資料を作成するにあたって調査したのは岩手県紫波町の農業支援のあり方であった。農業とともにある地域での現場の声を聞く機会を設けている様子を見ると、農業支援サービスはこうありたいと強く感じた。その後、広く全国の図書館の様子を調査し企画書を作成していく過程で、長岡の図書館は鳥獣被害対策だけでなく、未だ実施していない農業全般の支援を目指すべきではないかと考えた。

本稿では長岡市で可能な農業支援サービスの可能性を探りたい。第1に長岡市のおかれた現状と課題を把握し、第2に農業支援サービスとしての取り組みを提示し、第3にまとめを示したい。

2. 長岡市と長岡市立中央図書館の現状

(1) 長岡市の現状

長岡市は人口265,171人¹新潟県の中央に位置している県内第2の都市である。市町村合併により山間部から海までを含む広域を市域としている。米を中心とした農作物などの農業、高度な「ものづくり技術」を持つ企業に代表される工業、県内第2の商圏を持つ商業と、バランスのとれた産業構造である²が、令和3年(2021)の人口は前年比で18,000人減少している。また、老年人口は一貫して増加を続けており人口減少・少子高齢化が進んでいる状況である。

農作物収穫面積の約9割を稲が占め、全国有数の米の収穫量があり、豆類、野菜の生産が行われ、近年、巾着なす、かぐらなんばん、枝豆などは長岡ブランドの自慢の野菜として生産の強化を図っている³。

長岡市の農業従事者数は平成 22 年 (2010) には 5,863 人⁴、平成 27 年 (2015) には 5,091 人⁵と減少している。同様に平成 22 年に市町村合併を行ってから一時的に増加した作付面積や従事世帯は減少に転じている。

農業人口は減少しているが農業にかかわる話題は豊富で、令和 3 年には長岡市中之島地域の大口れんこんが地理的表示 GI 登録の取得をした⁶。令和 2 年には生産量約 1,000t、販売額約 5 億円と北日本で最大のれんこん産地になっている。GI 化することで品質を担保し長期に渡って市がブランドを保っていく方向性を示している。その他に長岡の枝豆を楽しみ、PR するイベント「エダマメフェスタ」や「世界えだまめ早食い選手権」は全国から参加者を集めるイベントとなっている⁷。

労働人口のうち 1 次産業は全体の約 4 % であり、2 次産業、3 次産業の割合に就労人口と比較するととても低い⁸。だが人口としてはおよそ 5,000 人の農業従事者が図書館は便利だと気づいてくれたらどうだろうか。農業従事者が図書館に行ってみたいと思ってくれるような、農業支援サービスを提案したい。

(2) 長岡市立図書館の現状

市内には中央図書館と地域図書館をあわせた 9 館と自動車文庫「米百俵号」2 台で併合した地域を巡回し、7 か所の支所地域に取次所を設けてサービスを行っている。ビジネス支援サービスを本格的に開始したのは平成 25 年度で「ビジネスのヒントは図書館にあり」としていくつかのセミナーを開催した。しかし、近年はセミナーは開催しておらず、ビジネス支援コーナーの資料収集担当であるが、資料提供以外に何をしたらよいか悩んでいた。これまでに起こっているビジネス支援サービスは下記のとおりである。

①ビジネス支援コーナーの設置

ビジネスの範囲を広範囲に定め、起業・ビジネスマナー、再就職、人生訓、日常の仕事のスキルアップに繋がる資料を約 3,200 冊提供している。

②パンフレットの設置

主に長岡商工会議所のパンフレットや、長岡市の産業関係部署のパンフレットを設置している。

③オンラインデータベースの提供 次の 8 種類のデータベースを提供している。

- ・日経テレコン 2 1
- ・聞蔵 II ビジュアル
- ・新潟日報記事データベース
- ・官報情報検索サービス
- ・D 1 - L a w . c o m
- ・ジャパンレヅジ L i b
- ・市場情報評価ナビ M i e N a
- ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービス

④まちゼミの支援

年に 2 回のまちゼミの特設コーナーの設置と各テーマのブックリストの作成・配布を行っている。

⑤若者仕事応援コーナー

進路を考え始める中高生や大学生に向けて、職業を考えるために役立つ本を集めた専用コーナーを設置した。職業を紹介する本から、面接や試験への対策本や仕事が舞台の小説を約 400 冊提供している。

現在のビジネス支援の中に明確な農業支援は打ち出していない。しかし前述したとおり長岡市の労働人口の約 4 %にあたる約 5,000 人は農業に従事している⁹。長岡市は新規就農者への補助金や、ICT や AI などを活用した次世代型農業「スマートアグリ」を利用して水や土の管理やに対して導入を支援している¹⁰。6 次産業への補助金¹¹もあり長岡市政での農業のウエイトは大きいと感じている。

3. 想定される農業支援サービスの内容

(1) 農業関係資料の展示

図書館と農業を担当する農水産政策課には、リーフレットや刊行物の提供を毎年依頼している。長岡に関する農業の資料を集め現在ビジネス関係資料を展開しているスペースに農業関係資料を追加する。一般のビジネス書の中には農業の現場で役立つような PDCA サイクル、人材育成、人間関係、SDGs の関連書籍が多くある。またデジタル化が遅れ気味と言われてきた一次産業の分野で、IoT を活用することや作業効率化、事業継承など図書も利用できるのではないだろうか。

加工やアグリツーリズム、農家レストランなどの農業の 6 次産業化が推進されている現状を考慮すると¹²商品開発やパッケージデザイン、設備、衛生管理、マーケティングなどの既存のビジネス書が参考になる分野もある。また大規模な農業法人経営体が増えている現状を考えると、組織としてのマネジメントも参考になる。

(2) 図書館が出ていくセミナー・講座の開催

農家のコミュニティに図書館が出張することも必要だと考える。特に繁忙期には早朝から作業に入る農業従事者は、図書館に来る時間を作るは困難である。また閑散期である冬季は足場が悪く外出が難しい。春から秋にかけての時期に農家のコミュニティを訪問し図書館の情報を提供したい。

農業担当課と協力して、地域のコミュニティセンターや公民館に出向いて実施するイベントを開催する。図書館は農業に関する DVD の上映や、農山漁村文化協会に協力を仰ぎ農作業のコツや裏技について解説を行う。現在は契約していないが、農文協のデータベース「ルーラル電子図書館」を導入しデータベース活用講座を地域で開催することも考えたい。その場で資料を借りてもらい、何度も講習会を行うことで図書館は役に立つということを体験してもらいたい。

(3) 鳥獣害対策の取り組み

講習会の課題で鳥獣被害対策のことを調査した。きっかけは、令和 3 年度長岡市に鳥獣被害対策課が新規に設置されたことであった。調査を進めると農業従事者だけでなく、一般

の市民にもぜひ知ってほしい事項が多く含まれていた。中でも不要な果樹の伐採など市街地の住民でもできる対策を多くの方に知ってもらいたい。この知ってほしい情報を広く提供するとしたら図書館はあらゆる世代が利用し、アクセスも良く効果的に使えるのではないだろうか。

駆除捕獲の新規の担い手が集まらないといった課題も抱えている。狩猟とはなにか、捕獲とはどのようなことをしているのか周知するために図書館という場は非常に適切であり、提供できる資料も豊富にある。知ってもらうことが不安を払拭することにもつながるため、図書館は担当課と協力しながらパスファインダー・ブックリストを作成し、補助金などの周知チラシを設置する。

また、長岡には「クマ出没マップ」というパソコンやスマホでみることのできる地図があり、地域の目撃情報を確認することができるが、ネットを使用することができない人にむけて図書館の中で紙の地図を広げ、鳥獣害が身の周りにどの程度あるかを地図で可視化してはどうだろうか。興味のなかった人、スマホはもっているがアクセスしたことがない人に訴求力があると考えている。情報の周知に図書館は非常に役に立ち、危機感を共有することができるのではないかと考えている。多くの人に知ってもらうことで改めて鳥獣害対策の必要性が見えてくると考える。

そして、最終的には地域の害獣を活用して、ジビエのような新たな地域の食文化の創造を目指している。図書館ではジビエのレシピ開発や、商品パッケージの作成、販売方法に関する資料を揃え提供することができる。また鳥獣害対策の担い手を招いてのトークイベントやイノシシやシカを使ったジビエの試食などを図書館が行い、一般的にジビエに対する否定的な意見を払拭することが重要である。ジビエは捕獲後の初期処理や加工調理技術が浸透していない分野であり、図書館の情報が役に立つと考えている。地産地消を応援するレストラン・飲食店でのジビエ料理の提供やレトルト食品開発に資料提供を行い繋がりが生まれることが理想である。

(4) 地域の高校との企画展示や連携

地域には農業のエキスパートを育成する新潟県立長岡農業高校がある。生産技術科では水稲・野菜・草花・果物を生産し、家畜を飼育し、植物のバイオテクノロジーについての学習をしている。「発酵・醸造」をテーマにした授業もあり、地元企業や農家の協力を得て、生徒たちは日本酒、ワイン、味噌、醤油といった発酵食品の作り方を実践で学んでいる¹³。高校生にとって、地域の図書館は親しみやすく入りやすい施設であることを踏まえると、ぜひ図書館を利用してもらいたい。そして高校生からも図書館での取り組みに協力してもらいたい。

地域図書館である南地域図書館では、コケ玉づくりの講座に農業高校の生徒たちを講師に迎えていた。作成だけでなく苔玉の管理方法や子株の育て方を講師の高校性が市民にレクチャーする人気の講座であった¹⁴。図書館で農業の体験を語ってもらうことで、農業の苦労だけでなく、楽しさも伝わってくるのではないだろうか。ぜひ図書館で高校生を講師

に迎えた多彩な講座を開催したい。農業高校では酪農を学ぶ生徒が食肉の知識や、食の加工について学ぶ生徒からは6次産業化への提言や、苦勞・知識を教えてもらいたいと思う。

また、地域の美術館では農業高校の写真部による写真展が開催されている¹⁵、その写真には農業に携わる角度からの作品が多くみられる。この感性を図書館でも披露の場として、使ってもらえることで、農業の姿を知ってもらう機会になるだろう。

新潟県内では「高校生ビジネスプラン・グランプリ」への応募数が少なく、長岡市内ではまだ1件もない状況である。農業高校のような実業系の高校のほうが、ビジネスのチャンスとなる問題点を発見しやすい状況にあると考えている。今回の講習会の中で土井講師から高校性ビジネスプラン作成講座の開催について講義を受けた。図書館と一緒にプラン作成することで、有効な資料の活用や情報の提供ができる。ぜひ協力してビジネスアイデアのヒントを見つけ、プラン作成をアドバイスし「高校生ビジネスプラン・グランプリ」へのエントリーを勧めたい。

3. さいごに

今回の提案には継続したサービスが必要であり、ビジネスライブラリアンの育成が重要である。継続的な人材育成にも注力したい。今回の講習の中で印象的であったのは鳥取県立図書館の小林館長の講義で、人の繋がり的重要性であるというお話だった。レフェラルサービスの中で、機関を紹介する時には先方の人の名前まで伝える。反対の状況を考えると、図書館の職員も他機関からの紹介で名指しで来館してくれる関係性をつくるということにつながるのではないだろうか。これには地道な業務の中で信頼のおける職員になることが一番の近道だと考える。

ビジネスライブラリアン講習会を受講しただけでは、ビジネスライブラリアンになったとは言えない。現場で継続して実践してこそ名乗れるのではないだろうか。さらなる研鑽を重ねていかなければと強く感じた。

¹ 長岡市住民基本台帳人口及び世帯数 令和3年4月1日

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/syukai/jinkou/file/jyumin-r03.pdf>

² 『長岡市総合計画』平成28年度から令和7年度 長岡市, 2016 p12

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate01/sougou/file/sougou-01.pdf>

³ 『長岡市総合計画』平成28年度から令和7年度 長岡市, 2016 p15

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate01/sougou/file/sougou-01.pdf>

⁴ 『長岡市統計年鑑』平成28年度 長岡市, 2016 p35

国勢調査 産業別(大分類)、従業上の地位、男女別15歳以上就業者数

https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate12/file/h28-00_00.pdf

⁵ 『長岡市統計年鑑』令和2年度 長岡市, 2020 p38

https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate12/r02/file/r02-00_00.pdf

-
- ⁶ 登録の公示(登録番号第 109 号) 農林水産省
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/register/109.html
- ⁷ 広報な毎日～花火のまちから～2019年07月20日 枝豆700kgを一日で!
<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate02/blog/20190720-1.html>
- ⁸ 『長岡市統計年鑑 令和2年度』長岡市, 2020 p38より算出
1次産業 3.85% (うち農業 3.7% 林業 0.05% 漁業 0.1%) 2次産業 31.07% 3次産業 63.68% 分類されないもの 1.38%
https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate12/r02/file/r02-00_00.pdf
- ⁹ 『長岡市統計年鑑』令和2年度 p38, 39
https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate12/r02/file/r02-00_00.pdf
- ¹⁰ 長岡市スマートアグリ推進事業補助金について (city.nagaoka.niigata.jp)
<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/sangyou/cate04/seido/smart-agri.html>
- ¹¹ 長岡市6次産業化・農商工連携取組支援事業補助金について (city.nagaoka.niigata.jp)
<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/sangyou/cate04/seido/sextiary-sector.html>
- ¹² 6次産業化の推進について 農林水産省 2022年2月
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/renkei/6jika/attach/pdf/2015_6jika_jyousei-2.pdf
- ¹³ 新潟県立長岡農業高等学校ホームページ
<http://www.nagaokan-h.nein.ed.jp/2-curriculum/2-curriculum.html>
- ¹⁴ 長岡市立図書館ピックアップ 2016年11月12日
長岡農業高校出張園芸教室～苔玉の作り方～
<https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/index.php?key=joj9rvx1-3027>
- ¹⁵ 長岡市栃尾美術館ギャラリー 2021年11月
https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=556